

4 活躍の足跡

(1) 戦前の選手達

米沢においては、大正末期から昭和の初めにかけて米沢商業学校・米沢工業学校・置賜農業学校でピンポンとしてレクリエーション的に行われていた。その米沢に正規の設備や技術を最初に伝えたのは、米沢商業学校出身で立教大学に進学した神尾信蔵（大正12年米商卒）である。彼は多少卓球の経験があることから同大学の選手として、大学リーグや全国大学学生選手権大会に出場し左利き選手として華々しく活躍したのであったが、米沢ではそうした事が一般には知られず、休暇帰省の折母校米沢商業を指導したといい、これがその後の米商卓球部の大活躍の一因をなしたといわれる。

丁度この頃、米沢中学校出身で早稲田大学に進学した駒形俊夫（大正13年米中卒）は生まれて初めて握ったラケットだったが理論的な技法、独創的な打法で目覚しい活躍をして、同大学の主将の座に押し上がった。昭和4年明治神宮奉祝全国大会（現在の全日本選手権大会）の男子シングルスで全国第3位、昭和5年全国推薦卓球大会では堂々の優勝者となる。

また駒形俊夫は昭和4年春に兄の駒形祐規を動かして、米沢市と東西置賜郡による第1回「1市3郡卓球大会」を開催し、ここで優勝した米沢チーム（篠原・神尾信蔵・駒形俊夫）は当時行われていた全国都市対抗卓球大会に山形県代表として最初の出場をした。

(2) 米沢商業学校の黄金期

昭和10年頃になると米沢の卓球界も成

長し、種々の全国大会にも出場して上位陣を脅かし「米沢の卓球強し」と全国的にも名前を知られるようになった。

当時ラケットは檜や桐の木質生地のままであり、グリップもペンホルダーの一本掛けが殆どであった。

当時の大会の花形は中等学校大会で、置賜地区では米沢商業、米沢中学、置賜農業、長井中学の4校が競っていた。中でも米沢商業の力は抜群で県内でも強敵山形商業と常に優勝を争っていた。その時の米沢商業の選手は大竹、斎藤、小林、大江、石黒で西方常蔵(昭和7年卒)、鹿俣栄寿(昭和8年卒)の両先輩がコーチを務め、高橋哲夫(昭和6年卒)、穂保洋策(昭和9年卒→立教大)等の指導も受け、選手たちは先輩達の熱心な指導に連日の猛練習で応えたという。

昭和10年の中等学校県大会では米沢商業が宿敵山形商業を団体・個人戦でともに破り、団体戦は優勝、個人戦においては米沢商業の3選手（大竹、斎藤、小林）が準決勝に進出し、決勝は大竹と小林の間で争われたが3年生の小林が優勝して、県南王者の貫禄を示した。

昭和3年全国卓球連盟主催、文部省後援の「第1回全国学生生徒卓球大会」が発足し、優勝校には東郷平八郎の優勝旗が与えられ、以後、「東郷優勝旗争奪戦」といわれ、その第2部が男子中等学校大会で、毎年1月上旬に東京で開催された。

この大会には昭和4年山形商業が出場して準々決勝まで進み、惜しくも東京府立八中に4-2で敗れているが、山形商業は翌昭和5年にも出場してよく健闘したという。

米沢商業がこの「東郷優勝旗争奪戦」に出場したのは、昭和11年からで、この年は準々決勝まで進んでいる。

昭和11年は米沢商業学校にとって、全盛時代であった。山形県卓球界の本命の米商が期待に違わずすばらしい活躍をしたのである。1月に東京で開かれる「東郷優勝旗争奪戦」に出場するため、前年の12月には休みを利用して全く血のにじむような練習をしたという。朝は10時から夜の8時まで、10日間続けられた。雪の積もる音が聞こえるほど静まりかえった体操場は雪国特有の寒さであり、薄暗い裸電球の下で打ち合う球の音と掛け声だけが天井にこだまするだけである。

こうして昭和11年1月4・5日に東京麻布小学校で開かれた「第9回東郷旗争奪全国学校対抗大会」(主催日本卓球会)に出場した米沢商業は、2回戦で日大四商と対戦し、これを4-2で破り、この大会初の勝利を挙げたのである。そのときの感激は苦しい練習に耐え、この日のあることを夢見て励んできた者のみが知るすばらしいものであった。

その時の記録は次のようである。

第2回戦

NO	米沢商業	4-2	日大四商
1	○小林	3-2	望月
2.	○大江	3-2	浅野
3	大竹	1-3	○神楽
4	○小林	3-1	内山
5	大江	0-3	○神楽
6	○大竹	3-2	浅野
7	小林		内山

次の準々決勝は、高輪中学であった。やはり全国大会となると、強豪揃いであるが、

それでも次の記録が示すように4-3の大接戦であった。

準々決勝

NO	米沢商業	3-4	高輪中学
1	○小林	3-0	藤崎
2	大江	0-3	○須山
3	○大竹	3-0	井上
4	小林	2-3	○須山
5	大江	1-3	○藤崎
6	○大竹	3-2	井上
7	小林	2-3	○須山

高輪中学はカット・ショートの上質なチームで、その練習相手に不足している米商は苦戦を強いられたということである。それでも大竹は、東京の中等学校選手権で優勝している井上選手のショートを、バックハンドでバックへ、次のボールはフォアへすばやく決める作戦で勝つたのである。また小林はラストで、カットの須山選手に悩まされた。相手のカットをバック側へ速球で決めていたが、バックハンドカットの守備が堅く、シーソーゲームになった。こちらは、すばやいピッチで速球を打つが、相手は微動だにせず上手にこちらのコートに返してくる。場内は二人の試合に固唾を呑んで見守ったが、しかしもう一息というところで小林は敗れ去った。その態度は立派であった。

それにしても、もう一人の選手である斎藤が、病気のため出場できなかったことは惜しまれる。彼はこの日のために技を磨き苦しみに耐えて練習してきたのにまことに残念だったと思う。

昭和12年、米沢商業は大竹、斎藤、小林の選手を擁して県下中等学校大会に団

体・個人ともに優勝し、全国中等学校大会でも注目されたのである。

このようにして、昭和12年1月4、5日に東京麻布小学校で行われた「第10回全国学校対抗大会」第2部（男子中等学校）に出場した、県優勝の米沢商業であったが、2回戦で対戦が決まっていた培材高普（朝鮮）との試合に選手の小林、斎藤が病気のため棄権をして涙をのんだ。

昭和13年1月4、5日の「第11回全国学校対抗大会」にも米沢商業は出場し、2回戦で東京府立一商に4-1で敗れている。しかし、3年連続全国大会出場は称賛に価する。

昭和13年頃になると目立った選手はいなくなり、米沢商業、興譲館中学、長井中学などが団栗の背比べで活躍していた。

ところが、昭和13年4月に、伝統ある米沢商業に有望な新人、秋葉真治が入学してきた。小柄で、軽快なフットワークを持つ足の速い男である。

当時山形県卓球選手権大会は、中等学校の部と一般の部に分かれ、軟式のトーナメント方式で行われ、さらに両部の優勝者で県選手権を争ったものである。

昭和15年には中等学校の部で米商3年の秋葉真治（昭和16年12月卒業）が優勝し、一般の部の優勝者との決勝でも勝って県選手権を獲得した。以後秋葉は9回連続山形県選手権を獲得している。

また、昭和16年に開かれた福島高商主催の「関東東北中等学校卓球大会」に、秋葉は決勝で仙台商業の加藤選手を3-2で破り優勝している。

昭和16年になると戦争状態が厳しくなり、スポーツ活動は戦時中断となる。戦後

スポーツ大会が再開されたのは昭和21年からである。

（3）戦後の卓球界

終戦の翌年の昭和21年11月に戦後復興の目的で第1回国民体育大会が復活第1回全日本選手権大会を兼ねて行われた。このときは既に硬式に一本化され、軟式は独立して全日本軟式卓球選手権大会となっている。

当時、山形県大会では鶴岡地区と米沢地区が強く昭和21年では秋葉真治（米沢商業→米沢営林署）が大活躍し、県大会で優勝して第1回国体（大阪府宝塚市）（この年だけ一般の部個人戦のみ）に出場した。

昭和22年には秋葉真治は県大会で一般男子の部で優勝し、第2回国体（石川県大聖寺町、団体戦のみ）、昭和23年の第3回国体（福岡市）、第4回（東京都）、第5回（愛知県半田市）、昭和26年第6回（広島県呉市）に連続出場した。

昭和27年第7回国体（仙台市）では、一般男子の部で、主将として秋葉真治が出場した山形県チームが決勝まで進み、東京都チームに敗れたものの堂々全国第2位の成績を挙げた。秋葉真治は昭和28年第8回国体（徳島市）にも連続出場している。まさに彼の独壇場である。

当時の卓球事情は本当に劣悪なもので、物質的にも、経済的にも厳しい現状で、卓球の設備や用具などまことに貧弱なものだった。練習用のボールも全く不足し、割れたボールなどはセメンダインで張って使うほどだった。ラケットのラバーもゴム質が悪く、そのころ東京で流行って

いたスポンジラバーなど、米沢に来たのも大分遅れたという。

(4) 高校生の活躍 1 (昭和時代)

戦後山形県内の卓球界は鶴岡地区と米沢地区が強く、中等学校、高校生の県大会も同様である。

昭和21年早々戦争で中断されていた全国学校対抗大会が復活開催された。復活第1回大会は通算第15回として東京都王子にある日本フェルト体育館で12月23日から、第2部(男子中等学校)は34校参加のもと行われたが、そこに山形県代表として米沢商業が出場し、準々決勝まで進んで前橋中学に惜しくも3-2で敗れている。

昭和22年の国体予選県大会では中等学校男子単の部で、白根沢利雄(昭和25年米沢一高、現興讓館高卒)は優勝候補の鈴木文雄(鶴岡工業)を破って優勝し、第2回国体(石川県大聖寺町、この年だけ中等学校の単が新設)に県代表として中等学校男子単に出場した。大会本番ではベスト8決定戦まで勝ち上がり、優勝した松山君(名古屋電気)に敗れたが全国ランキング第10位の栄冠を勝ち得た。

昭和23年には、全国学校対抗山形県大会の高校男子の部(この年より新制高校となる)で、米沢第一高校(現興讓館高)が優勝し、全国大会(東京皇居内)に出場した。当時は4単1複の5試合で、選手は川合悌次郎、宮原良吉、佐藤健二、白根沢利雄の4人、1回戦は岐阜に勝ち、2回戦は前年度優勝の栃木商高と対戦したが接戦で敗れた。

その後もダブルスは他の県大会でも優勝したが、遠征費用等で学校からの許可が得られず全国大会出場を断念したこともあったという。

昭和25年には正式に山形県高校体育連盟が組織され、第1回山形県高校総合体育大会が発足した。早速この年、女子学校対抗で米沢高校・東校舎(現米沢東高)が秋葉真治(東校事務職員)の名コーチの下猛練習の末、得た実力を発揮して優勝した。

昭和25年第19回全国学校対抗大会は8月、京都同志社大学

米沢高選手(現在姓)
関 まさ子(小笠原)
武田チエ子(武田)
小島 貞子(岡崎)
後藤美代子(長谷川)
小林 直枝(阿部)

体育館で行われ、米沢高は女子学校対抗に出場したが2回戦で敗退した。

当時の思い出を「米沢東高校百年史」から引用してみる。

『昭和22年4月の校舎火災により学年毎、商業高校、北部小、米工専に分散しての授業を受けていた頃である。当時山形県ランキング1位の秋葉真治さんをコーチに迎え、相川信子部長以下12名による強化練習が開始された。顧問は鈴木知視先生であった。

毎日放課後、焼け残りの教室に集まり、基礎から指導を受けた。「正しいフォームを身につけなければ決して上達は出来ない」というのがコーチの持論であったから、ラケットを握り空振りをしながらのフォーム作りと、フットワークを徹底して練習させられた。

翌昭和23年10月新校舎の落成と共に待望の卓球室が校庭西北の隅に完成し

たものの、予算の都合で卓球台は1台だけ。それから部員有志のアルバイトによる資金集めが始まった。夏休みにはリンゴの袋張り、アイスクャンデー売り等して何とかもう1台設置することが出来たのである。

その頃からようやく練習の成果が表われ、置賜地区予選では勝ち抜く事が出来るようになったが、県大会ではあと一歩というところであった。当時の顧問は山上一郎先生で、毎日部員と共に練習に汗を流された。それまで剣道一筋でこられた山上先生の上達振りには部員の意気をいやが上にも奮い立たせるものがあつた。

秋葉コーチに指導を受けてから2年半、昭和25年8月、遂にインターハイ県大会にて団体優勝、東北大会第3位、そして全国大会出場の夢を果たすことが出来た。顧問は香坂正脩先生、部長は関まさ子（現小笠原）さんであった。』

（併設中学校第2回生 武田チエ子）

昭和26年には東北高校卓球選手権大会の女子ダブルスで小島美代子・後藤淳子組（米沢東）が優勝している。米沢勢が東北大会以上に優勝した唯一の記録である。

山形県高校総体優勝記録は次の表の通りであるが、団体戦となると厳しい時代であった。昭和23年に男子団体で米沢一高、昭和25年に女子団体で米沢高校が優勝して以来、ようやく昭和39年と40年に男子団体で米沢工業高が連続優勝しただけであった。

次に全国高校卓球選手権大会における活躍の跡を見てみよう。

昭和39年は会場が三重県伊勢市県営

体育館で8月5日～9日に行われた。

監督は齋藤俊也で、団体戦の1回戦は不戦勝だった。

2回戦の横浜商業高は準々決勝まで進んでおり、河原(横浜商)は男子シングルスで優勝している。

昭和39年全国高校総体 2回戦	
米沢工業高 2-3	横浜商業高
1 黒田重浩(2) 0-2	○河原
2 ○木村 稔(3) 2-0	島田
3 木村・鈴木 0-2	○河原・平田
4 ○鈴木一雄(2) 2-0	内田
5 八木正敏(3) 0-2	○平田

初めての全国大会で壁の厚さを知らされた大会だったが、十分手ごたえを感じた試合でもあつた。個人戦は木村・鈴木組のダブルスが3回戦まで進み、シングルスでは木村、鈴木ともに2回戦で敗れた。

昭和40年の全国大会は長崎市国際会館で、会期は8月4～8日だった。

昭和40年全国高校総体 2回戦	
米沢工業高 2-3	銚子商業高
1 ○鈴木一雄(3) 2-1	西村
2 ○上原文雄(1) 2-1	町田
3 鈴木・横尾 1-2	○西村・井上
4 横尾 修(2) 1-2	○井上
5 遠藤光男(1) 1-2	○小池

米沢工業高（監督齋藤俊也）は、今度は2度目ということで大分慣れてきたのであつたが、銚子商業に惜敗した。すべてのゲームが2-1のスコアであるのが接戦の証であろう。しかし、鈴木が、本大会のシングルスで第2位になった西村恒男（銚子商）に勝つたのは特筆すべき健闘であろう。

シングルスには横尾修（2）と鈴木一雄

(3) がともに4回戦まで進みベスト32になっている。

この他全国大会のシングルスでは、昭和42年(富山市)に上原文雄(米沢工)がベスト32に入っている。

次に特筆されるのは、昭和41年に東北高校卓球選手権大会の男子シングルスで、伊藤誠二(米沢商)が決勝戦で熊地(秋田商)と対戦し惜しくも敗れたが、第2位の快挙を成し遂げたことである。

(5) 高校生の活躍2

(昭和時代の置賜地区大会)

次に置賜地区の様子を見ると、戦後では男子で昭和23年県優勝の米一高(現興讓館高)が強くその後米沢商業がしばらく地区優勝している。女子では昭和25年県優勝の米沢東高の独壇場であった。

昭和30年以降の置賜地区における団体優勝校を列記してみる。

山形県高校総体優勝記録	
23	男団 米沢一高 (現興讓館)
25	女団 米沢高 (現米沢東)
29	女複 黒田勲子 関口正子 (米沢東)
30	団単 渡部修爾 (米沢商)
36	女複 遠藤ヨシ子 網代とみ子 (米家政)
37	女複 本道敏子 菊池憲子 (米中央)
39	男団 米沢工業高
40	男団 米沢工業高
	男単 鈴木一雄 (米沢工)
41	男単 伊藤誠二 (米沢商)
42	男単 上原文雄 (米沢工)
49	男複 小泉晴美 加藤里美 (興讓館)
55	女複 佐々木範子 高野 忍 (米沢東)
63	女単 木村圭子 (興讓館)
	女複 松田尚子 木村圭子 (興讓館)
平6	女単 木村美保子 (中央)
8	女複 嶋貫有希子 伊藤知佳 (米女子)
11	男団 米沢中央高
	男単 和久井怜 (米中央)
	男複 和久井怜 横山和広 (米中央)
12	男団 米沢中央高
	男単 横沢智樹(米中央)
	男複 横沢智樹 横山和広(米中央)
13	女単 高村美智子(九里高)
18	男複 大木駿輔 李 午 (九里学園)

置賜地区 春季 高校総体 優勝校			
年度	男子	女子	備考
30	米商高	家政高	理事 楡井寿澄
31	同上	同上	1複4単の試合
32	同上	同上	米東高で県大会
33	米工高	同上	理事廣居晃太郎
34	同上	宮内高	
35	同上	家政高	
36	同上	同上	理事 齋藤俊也
37	米商高	中央高	
38	米工高	同上	
39	同上	米東高	
40	同上	同上	米中央で県大会
41	同上	中央高	
42	同上	米東高	
43	興讓館	中央高	男9S、女AB/PQ
44	米商高	同上	
45	長工高	女子高	

置賜地区 春季 高校総体 優勝校			
年度	男子	女子	備考
46	宮内高	米東高	1複6単の試合
47	興譲館	同上	山形インターハイ開催
48	同上	同上	
49	同上	同上	
50	同上	同上	
51	長工高	同上	
52	同上	同上	米市体で県大会
53	同上	米商高	新庄インターハイ開催
54	同上	米東高	理事 斎藤 悟
55	同上	米商高	
56	同上	同上	
57	同上	宮内高	
58	中央高	同上	
59	長工高	長井高	変則1複4単 ・市体で県大会
60	同上	米東高	
61	同上	同上	
62	同上	興譲館	
63	同上	同上	

ここで優勝チームの監督を見ると、男子では昭和30、40年代の米沢工高の齋藤俊也、米沢商高の尾崎辰雄、昭和47年からは、県中学大会で活躍した選手が入学した米沢興譲館高の横山敏彦、昭和50、60年代では長井工高の斎藤悟と米沢中央高の亀岡剛である。

女子チームでは、昭和30年代の米沢家政高の有路光雄監督とコーチの穂保洋策、昭和40年代の米沢中央高の亀岡剛、また米沢東高では昭和39～42年が佐々木幹男、昭和46年からは齋藤俊也、米沢女子高では白岩正隆が監督である。

(6) 高校生の活躍3(平成時代)

平成時代になると、男子は長井工業高、女子は九里学園高(監督大滝勤)の独壇場となる。特に平成4年の「べにばな国体」の少年男子の部が、長井市で開催され、長工高の選手が出場することになって、強化も話題も長井市の独占状態で、米沢勢は苦戦を強いられていた。

平成11年と12年には、米沢中央高が山形県高校総体で男子学校対抗、男子シングルス、男子ダブルスの2年連続3冠王に輝いている。

平成17年には九里学園高で、中国から男子選手1名を、18年には女子選手1名を留学生として迎え、今後の活躍が期待される。

以下、平成時代の春季置賜地区高校総体の優勝校を列記してみる。

置賜地区 春季 高校総体 優勝校			
年度	男子	女子	備考
元	長工高	米女高	理事 斎藤 悟
2	同上	同上	
3	同上	同上	正式の1複4単
4	同上	同上	理事 石山勘一
5	同上	同上	
6	同上	同上	
7	同上	同上	
8	同上	長井高	
9	米中央	同上	
10	同上	米女子	理事 新野 敦
11	同上	九里学	
12	同上	同上	
13	同上	同上	40ミリボール 理事 渋谷淳一
14	長工高	同上	11本ゲーム
15	同上	同上	
16	同上	同上	
17	同上	同上	
18	九里学	長井高	

この時期の主な監督は、米中央高は板垣孝司、九里学園高は男子が大滝勤、女子は廣田芳雄、荒井雄介、興譲館高は上浦勤、米東高は石山勘一である。

(7) 国民体育大会での活躍

国民体育大会への出場者を見ると、秋葉真治（昭和16年12月米商卒→米沢営林署）の活躍が有名である。

昭和21年に大阪府宝塚市で開かれた第1回国体へ一般男子の選手として初出場して以後第8回(昭和28年・徳島市)まで連続出場して活躍した。

特に昭和27年仙台市で行われた第7回大会では一般男子の山形県選手団として秋葉真治(米沢)、池田武(現姓森、新庄北→早稲田大)、難波一男(酒田東→明治大)、鈴木文雄(鶴岡工→中央大)、菅原正(鶴岡南→中央大)のメンバーが決勝まで進み、惜しくも東京都チームに敗れたが、堂々の第2位の好成績を収めた。秋葉真治はその後第19回(昭和39年新潟県直江津市)、第21回(昭和41年大分県日出町)にも出場している。

次の国体出場は昭和40年になる。国体東北予選会の高校男子の部で山形県チーム(監督齋藤俊也(米沢工)、鈴木一雄(米沢工)、鬼島憲司(山形南)、小山久雄(日大山形)、渡部博久(山形電波))が6県対抗のリーグ戦で全勝優勝して、本国体(岐阜県中津川市)に出場し、1回戦で富山県チームに勝ち、2回戦で優勝した京都府チームに善戦して敗れたがベスト8に入賞している。

次は昭和42年第2回国体(埼玉県寄居町)の高校男子の部に上原文雄(米沢工)が出場している。

平成4年の第47回「べにばな国体」(山形県)の少年女子の部(長井市)に出場した山形県チーム(監督秋葉正昭(城北女)、選手高石恵理(米沢女)、長谷部亜記(城北女)、井上真樹(山形学院))は1次リーグの高知県、福井県と組んだCグループで1位となり決勝トーナメントに進んだが1回戦で栃木県に敗れたもののベスト8になった。

平成5年の第48回国体(香川県高瀬町)には小倉亜紀(米沢女)が少年女子の部に出場した。

他に全国大会で活躍したのは、鈴木一雄(米沢工→中央大→アシックス:中央大監督)が昭和44年の全日本学生選手権男子ダブルスで優勝し小倉亜紀(米沢女→山形女短→日立米沢電子)が平成8・10年の全日本軟式選手権大会でともに4回戦まで進みベスト16のランク入りしたことである。

(8) 中学生の活躍

ア、創立の頃(昭和20年代～30年代)

昭和23年に新制中学校が発足し、初期の頃は一中、二中、三中の3校で大会を行っていたが、昭和36年に四中が加わり、その年県中体連としての第1回大会が行われた。

昭和39年には男子団体が高橋勝廣監督の四中が優勝している。

イ、米沢の黄金時代(昭和40年～50年代)

全国中学校卓球30年誌(〔財〕日本中学校体育連盟卓球競技部・平成11年3月10日発行)196頁にも紹介されているが米沢市中体連卓球部は昭和39年～53年の15年間で学校対抗男子団体6回、女子団体7回計13回の県優勝の実績をあげ黄金時代を築いた。

男子は昭和 39 年、41 年に高橋勝廣監督の四中、昭和 45 年には鈴木允監督の三中、そして 44 年、46 年、49 年の佐藤敏夫監督の二中が県優勝。女子は昭和 41 年の四中、昭和 45 年、46 年、48 年、49 年の二中、昭和 52 年、53 年の四中が県優勝。二中の後、四中に転勤してすぐ県制覇を果たした佐藤敏夫監督の活躍は中体連の歴史の中でも大変素晴らしい功績である。

全国大会へも昭和 46 年～53 年にかけて男子団体では二中が 2 度出場している。中でも昭和 46 年度の二中男子団体鈴木、大木、黒金各選手が活躍し、山形市で行われた第 1 回東北大会で青森、秋田を破り優勝している。

次に県大会の個人戦でも成果があった。男子シングルスで昭和 42 年に三中の牧野幸夫、昭和 45 年に二中西山義則、昭和 46 年に二中鈴木孝行、昭和 48 年に二中池村春彦の四選手が県チャンピオンになった。ダブルスでは、昭和 40 年に四中の永瀬・遠藤組が、昭和 42 年に三中の牧野・高橋組が、昭和 45 年に二中吉田・西山組が、昭和 46 年に二中鈴木・大木組が県で優勝した。

女子も頑張った。シングルスは昭和 40 年に四中の今野悦子、昭和 47 年に四中の渡部節子、昭和 48 年に二中の三宅良美の 3 選手が県の頂点に立ち、ダブルスでも昭和 45 年に二中の清水・遠藤組が、昭和 47 年に四申渡部・本間組が、昭和 48 年二中の三宅・藤倉組の 3 ペアが県を制覇した。

二中の鈴木孝行、三宅良美の 2 人が県の三冠王になったが、特に鈴木は米沢市、山形県、東北の各大会は無敗で、高校進学後県営体育館で開かれた国際試合日本・中国対抗戦に世界チャンピオン長谷川信彦氏等

とともに出場し中国代表選手を破っている。

この 40 年代に米沢がどうしてこれほど活躍することができたか、いろいろな要因があると思うが次の 3 点に集約される。

1 つには昭和 40 年代は米沢市中体連卓球部（7 校）の監督、コーチ、選手のモチベーションや目標意識が非常に高かった。その頃は県内で米沢地区のレベルが高く、米沢で勝てば県制覇ができるという雰囲気があった。中でも米沢四中創設時の監督である高橋勝廣先生の功績が大きかった。高橋先生を目標として他校が切磋琢磨し三中の鈴木允先生、上郷中、四中の須藤正先生等の各指導者があとに続いた。

2 つ目は主役である生徒達の頑張りがすごかった。市内各校の選手はいずれも礼儀正しく思いやりや周りへの感謝の念が強く毎日の練習や試合ではお互いライバル心を持ち、創意工夫と我慢強さ（ハングリー精神）を持つ選手が多かった。あわせて各校の先生方や保護者、市中体連本部、市卓球協会そして高校生の温かいサポートがあった。

3 つ目に昭和 40 年代は県内は学校統合前の戦国時代で今のカブ・バンビ・ホープスなどの大会もなくスポーツ少年団の存在が少なかった。県内の多くの中学生は新入生を迎える 4 月に卓球初心者の生徒をかかえ、ほぼ同時スタートの部活動に入ったことも米沢の指導者、選手達にとって幸いした。

米沢四中 OB 上原氏の話によると昭和 39 年米沢市として初めて四中が県制覇した理由のひとつに「継続は力なり」をモットーに夏休みの朝練習のひとつ、学校で共同炊事をし、監督と選手、保護者らがみんなと同じ釜の飯を食べ本音で率直な話し合い

を持ったこと、さらに窪田にある某寺で座禅修行を定期的に行って心の強化・安定をはかったということである。

また、昭和45年夏の県大会女子団体決勝で米沢二中が相手チームと2対2、ラスト5番手のゲームが開始した途端、二中選手のラケットが根元から折れ、級友の代わりのラケットを使つたが大きくリードされた。

あきらめずにねばりにねばっていると、応援の先生が機転をきかして宿舎からスペアのラケットを急いで届けて最終的に試合は逆転勝ちで選手全員が優勝の感激にひたつたということである。

山形県中学校総合体育大会卓球競技優勝一覧

<男子>

年度	学校対抗	シングルス		ダブルス	
39	四中				
40				永瀬勝広・遠藤 仁	四中
41	四中				
42		牧野幸夫	三中	牧野幸夫・高橋 進	三中
44	二中				
45	三中	西山義則	二中	吉田健一・西山義則	二中
46	二中	鈴木孝行	二中	鈴木孝行・大木弘一	二中
48		池村春彦	二中		
49	二中				

<女子>

年度	学校対抗	シングルス		ダブルス	
40		今野悦子	四中		
41	四中				
45	二中			清水幸子・遠藤法子	二中
46	二中				
47		渡部節子	四中	渡部節子・本間京子	四中
48	二中	三宅良美	二中	三宅良美・藤倉恵久子	二中
49	二中				
52	四中				
53	四中				

米沢市中学校総合体育大会卓球競技 団体優勝校（昭和41～49年度）

年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49
男子	二中	三中	二中	二中	二中	二中	二中	二中	二中
女子	四中	四中	一中	二中	二中	二中	四中	二中	二中

米沢市中学校総合体育大会卓球競技 団体優勝校・優勝者（昭和50～平成18年度）

<男子>

年度	学校対抗	シングルス		ダブルス	
		氏名	学校名	氏名	学校名
50	二中	甘木 奨励	二中	山口・村井	二中
51	南原中	本田 純悦	四中	本田純悦・渡部浩司	四中
52	一中	剣重 雅人	五中	剣重雅人・須田裕之	五中
53	四中	渡部 義朗	四中	佐藤恒昭・渡部義朗	四中
54	一中	有路 光一	四中	安部正弘・笹原晃二	一中
55	四中	遊佐 淳一	四中	遊佐淳一・永井 聡	四中
56	五中	遠藤 洋	四中	遠藤 洋・鈴木敏夫	四中
57	二中	大橋 憲市	四中		
58	四中	橋本 光司	四中		
59	二中	石川 康治	二中		
60	五中	皆川 武司	二中		
61	二中	皆川 武司	二中		
62	三中	田中 和征	綱木		
63	五中	田中 和征	綱木		
H1	三中	浜田 明孝	五中		
2	三中	奥山 勝彦	三中		
3	三中	吉田 和弘	一中		
4	二中	伊藤 晃二	三中		
5	上郷中	伊藤 晃二	三中		
6	三中	遠藤 知樹	三中		
7	三中	遠藤 知樹	三中		
8	三中	太田 雄一郎	三中		
9	四中	遠藤 忍	四中		
10	四中	佐藤 純一	二中		
11	四中	佐藤 純一	二中		
12	四中	村形 優樹	四中		
13	四中	大木 優輔	四中		
14	四中	舟山 健介	四中		
15	五中	遠藤 拓	五中		
16	四中	舩山 佳佑	五中		
17	五中	藁科 宏樹	三中		
18	四中	遠藤 優太	四中		

<女子>

年度	学校対抗	シングルス		ダブルス	
		氏名	学校名	氏名	学校名
50	二 中	佐藤 直美	二 中	黒田博巳・我妻智子	上郷中
51	四 中	海野 恵美子	四 中	横山浩子・島貫由美子	二 中
52	四 中	安藤 真理子	四 中	安藤真理子・伊藤由紀子	四 中
53	四 中	二階堂 由美	四 中	金井英希・加藤圭子	四 中
54	四 中	川野部 陽子	四 中	小野里寛子・佐藤礼子	四 中
55	四 中	白田 美恵子	四 中	大淵順子・我妻佐智子	二 中
56	四 中	今井 利江	四 中	安部希久子・二階堂佳子	四 中
57	四 中	遠藤 祥子	四 中		
58	二 中	伊藤 由佳	二 中		
59	二 中	松田 尚子	三 中		
60	二 中	松田 尚子	三 中		
61	二 中	大比良 輝美	二 中		
62	二 中	竹股 幸恵	二 中		
63	二 中	遠藤 泰子	二 中		
H1	三 中	田沢 恵美	三 中		
2	三 中	遠藤 夏樹	三 中		
3	三 中	羽賀 智恵子	五 中		
4	三 中	鹿俣 百加	三 中		
5	三 中	吾住 和枝	三 中		
6	南原中	鈴木 理恵	二 中		
7	四 中	岡山 美香	一 中		
8	四 中	坂野 美保	上郷中		
9	四 中	石川 ゆう子	四 中		
10	南原中	栗山 亜由美	四 中		
11	三 中	板垣 真希子	二 中		
12	三 中	黒金 真貴子	二 中		
13	五 中	加藤 由美	四 中		
14	三 中	黒金 真貴子	二 中		
15	三 中	渡部 夕希	三 中		
16	三 中	明石 茜	三 中		
17	三 中	秋葉 紀子	三 中		
18	七 中	嵐田 順子	一 中		

ウ・最近の活躍（昭和 60 年代～平成年代）

昭和 50 年代後半からスポーツ少年団の活動が盛んになり、学校の部活動だけでは県の上位入賞はたいへん困難な時代になった。そんななか、昭和 60 年代からの活躍として顕著なものは、団体戦では昭和 62 年の三中男子の県大会第 3 位が挙げられる。また、女子では平成 11 年の県新人南ブロック大会で三中が第 2 位に入賞した。個人戦では男子が昭和 61 年に二中の皆川武司、平成 7 年に四中の遠藤知樹の 2 人が県大会ベスト 8 で東北大会に出場している。女子は昭和 60 年に三中の松田尚子が県大会第 2 位、平成 3 年に三中の蓼沼裕美が県ベスト 8 で東北大会に出場している。

昭和 60 年度からの米沢市内大会の主な結果は、団体では三中男子が、平成元年から 3 年までと平成 6 年から 8 年までの 2 回、3 年連続優勝を果たしている。女子では二中が昭和 58 年から 63 年まで 6 年連続優勝を、三中が平成元年から 5 年までの 5 年連続優勝をしている。そして、四中が平成 7 年から 9 年までの 3 年連続優勝をしている。ここでの活躍は二中では樋口哲弘監督、三中ではベテランの佐藤敏夫監督の熱心な指導の賜物であった。

最近の活躍としては米沢四中男子チームが平成 13 年度には県大会準優勝、14 年度には第 4 位に入賞し、13 年度には河北町民体育館で行われた東北大会で出場しベスト 8 という近年にはないすばらしい成績を残している。

そんな成績が残せたのは平成に入ってから毎年計画・実行してきた強化事業の賜物ではないかと考えられる。中央から世界のトップの講師を招いて技術講習と指導者講

習を開催しているが、初心者の方の技術力向上をねらいとしたこの講習会はたいへんわかりやすいと好評で中学生の卓球への意欲と技術力を高める良いチャンスとなっている。

（9）スポ少の活躍

卓球スポーツ少年団の発足

昭和 54 年 4 月、ある体育会の会合の席上で、当時の（故）北目二郎米沢市教育委員会教育長から「ポピュラーな卓球は少年団活動に適しているように思いますが、どうですか?」とのアドバイスを受けました。当時は全国的にスポーツ少年団の勃興期でした。よきアドバイスを受け、早速有志に相談し結成することになりました。

昭和 54 年 5 月 14 日置賜総合文化センターで発起人会準備会を開催しました。メンバーは、米沢地区卓球協会より高橋哲夫、高橋浩一、（故）皆川頼郎、発起人代表の小笠原富雄。各地区から今井重夫（南部）、加藤弘、五十嵐力（北部）、遠藤栄吉、山田小八郎（中部）、伊藤忠夫（東部）、高山孝吉（南原）、佐藤清一（上郷）、遠藤みつ子（窪田）が集まり「まず、米沢市全域で一団としてやりましょう」ということで話合いました。

同月 21 日には発起人会を開催し、団長に小笠原富雄、事務局長に高橋哲夫を決定してスタートしました。当初の計画通り米沢市卓球スポーツ少年団は全市一団としながら、団員の募集要項を米沢市広報に掲載して全戸配布しました。また、小笠原・今井で市内各小学校を訪問し、募集要項の説明と少年団への協力をお願いしました。特に南部小学校からは毎週の練習会場として西体育館の使用許可を頂きました。そして競技種目として 6 番目、スポーツ少年団とし

ては 16 番目の団として、米沢市に登録されました。

同月 29 日募集締切りという短期間の取り組みでしたが、37 名の入団者を得て、6 月 10 日に第 1 回目の練習会に入りました。

以後、毎週日曜日の練習会を続けました。指導上特に心がけたのは、卓球技術の体得はもちろん、団体行動の大切さ、仲良く楽しく元気に「おはようございます」「お願いします」「ありがとうございます」「さようなら」の挨拶が素直にできる子ども達に育てることでした。雪が降るまで一生懸命頑張りましたが、週一回だけの練習でしたので技術的にはピンポンの域を脱することが出来ませんでした。しかし、中学・高校で開花する団員が多かったので年々入団者が増えてきました。

37 名の団員でスタートしましたが入団希望者が多く、3 年目からは 40 名定員に変更したものの、実際には 50 名を超える団員の入団を認めざるを得ませんでした。人数が多すぎるために、いささか戸惑いを感じな

がらの指導でしたが、ご家族の絶大な協力を得ながら活動を継続することができました。

昭和 54～56 年にかけて県内全域に続々と卓球少年団が誕生し、その活動も活発化して、他地区との交流会も盛んになりました。また、年 1 度は『県民スポーツ大会中央大会』に参加し、当時の県知事板垣清一郎賞を受賞するなど、徐々に成果が上昇してきました。その刺激がいつしか少年団父母の会の結成となり、また青年部(指導員若手、指導補助員等)男女チームまで県大会に出場し、子ども達より一足早く上位入賞を果



たしました。

米沢市卓球スポーツ少年団役員名簿 昭和 54.6.10 現在

顧問	小島弥左衛門 白田 虎雄	理事	伊藤忠夫 板垣正明 樋口喜代子 五十嵐 力 太田和男 鈴木栄子 長沼由美子 山田小八郎 遠藤栄吉	理事	佐藤与司夫 福田 俊夫 五十嵐謙一 小坂 等 遠藤みつ子 佐藤清一 高山 孝吉	指導補助員	遠藤日出男 牧野 幸夫 田村 修 鳥取 正春 板垣 健二 白川 文基 遠藤 二夫 小島 勤 小笠原まさ子
団長	小笠原富雄				常任理事兼指導員		皆川 頼郎 高橋 浩一
副団長	加藤 弘 佐竹 勝實						
主治医	三條 恒夫						
常任理事兼事務局	高橋 哲夫 今井 重夫						
理事	齋藤 俊也						

米沢市卓球スポーツ少年団第 1 期生団員名簿 昭和 54 年度

1, 遠藤敏郎 2, 遠藤祥子 3, 島貫恵美 4, 菊地美和 5, 渡辺由紀子 6, 高橋久義 7, 滝口修 8, 高橋稔 9, 石川和規 10, 今井健二 11, 松橋範幸 12, 山岸哲哉 13, 村山正博 14, 佐藤建治 15, 曾根眞 16, 菊地勝也 17, 遠藤信人 18, 鈴木源三郎 19, 井上恵美子 20, 庄司浩恵 21, 今野真理子 22, 佐竹篤子 23, 安部雄一 24, 今野和伸 25, 石上英子 26, 遠藤孝 27, 佐藤政之 28, 加藤知子 29, 小嶋勝 30, 落合雄一郎 31, 木口尚 32, 後藤典子 33, 飛田圭治 34, 大河原敏広 35, 大河原敏雄 36, 仲田知博 37, 君島啓史

米沢市卓球スポーツ少年団 団員の誓い

私達の誓い

- 1 心と体を鍛えしっかり技を磨きましょう。
- 2 礼儀と規律を守り人に迷惑をかけないようにしよう。
- 3 常に正しい行いをして立派な人になりましょう。

中学生の強化練習会

卒団した子ども達は、ほとんど中学校の卓球部に入部して中心選手としての活躍の場が広くなりました。一貫指導を少しでも補足出来ないか相談した結果、以下のような中学生対象の講習会を実施しました。

<p>基本練習</p> <p>一時間課題練習</p> <p>1 クロス打ち(5分)</p> <p>2 ストレート打ち(5分)</p> <p>3 ショート、カット(各5分)</p> <p>4 ツツキ(5分)</p> <p>5 フットワーク(20分) 左右・オールフォア・切り換え 前後左右 バックで切り換え</p> <p>6 サーブ・レシーブ(各10分) 3球目・5球目(2球目・4球目) 練習方法の選択で5分短縮</p>	<p>二時間課題練習</p> <p>自分の不得意なものの練習</p> <p>1人10～15分、20～30分で交代</p> <p>7 イ、ツツキからのドライブ ロ、フォアクロスのカット 打ちからバックに打つ ハ、3球目、5球目攻撃 ニ、一方に集めてオールに動かしてもらう ホ、切り換え ヘ、前後・左右のフットワーク</p> <p>実戦練習</p> <p>8 イ、全面を使って練習 ドライブ/ドライブ、</p>	<p>ドライブ/カット、カット/カットの組合せ</p> <p>ロ、ハンディ戦 ハ、ハンディなしのゲーム ニ、促進ルールによるゲーム ホ、苦手な相手との練習</p> <p>その他 試合前の練習</p> <p>イ、100本の粘る練習(1週間前まで)</p> <p>ロ、試合形式の練習(最後の1週間) 練習試合の記録を克明にとる</p>
--	---	--

合計 11 回の少年団主催の講習会を開催 し、中学生の実力向上に少なからず貢献で

きた事は、若い指導員の方々の情熱と熱意、そして献身的な指導力の賜物と深く感謝いたします。また、各中学校の顧問の先生方のご協力に対しましても重ねて感謝申し上げます。少年団の練習会の合間に行ってきた講習会ですので、小学生の団員にとっても先輩方の真剣な練習を実際に見聞して自分の技術力向上に役立っていたことは確かです。最後に毎回の練習日に快く開放していただいた南部小学校の歴代校長先生、教頭先生、各先生方に心からお礼申し上げます。

現在までの卓球スポーツ少年団

入団者が増えれば、団員の気力・闘争心も向上し、活気のある活動が続きました。如何せんここ数年来少年団活動の多様化、併せて児童数の急激な減少もあり、卓球スポーツ少年団もこの流れに逆らえず定員割れが続いています。しかし、少数精鋭発足時の精神を今に伝えるべく、歴代団長並びに指導員の方々は変わらぬ情熱を団活動の存続のため頑張っております。

米沢市卓球スポーツ少年団 歴代団長名

代	年 度	氏 名	代	年 度	氏 名	代	年 度	氏 名
1	昭和 54～58	小笠原富雄	4	平成 4	吾住 茂	7	平成 17	柏倉正一
2	昭和 59～62	佐竹勝實	5	平成 5～8	関谷知樹	8	平成 18	布施 等
3	昭和 63～平成 3	高山孝吉	6	平成 9～16	金子雅明			

(10) サクサ株式会社 (旧田村電機) 卓球部
米沢地区卓球協会の設立 60 周年誠に
おめでとうございます。心よりお祝いを
申し上げます。

さて、当社、サクサ株式会社 (旧 田村電機製作所) 卓球部 (以下 当社卓球部) における「活躍の足跡」について少しふれさせて
いただきたいと思います。当社卓球部においても長い歴史があり、創部されて約 40 年近くになりますが、現在も積極的に活動を続けており、各種大会での入賞を目指しています。この約 40 年間での活躍は数多くあり、長年に渡る各種大会での入賞数は数え切れない程あります。今回ご紹介させていただく「活躍」は、各種大会での入賞結果では記憶の部分でもあることから、

当社卓球部としての「部活動の活躍」としてご紹介させていただきたいと思います。

現在、部活動は体育館で行うことができ、用具 (設備) 等も比較的新しものが揃っており、練習するときには用具室からキャスター付の卓球台を容易に運び出しセッティングし練習することができます。しかし、創部当初 (体育館建設前) は練習するにも



苦労があり、現在では当たり前のことがそ

うではない時代もあったようです。練習ができる広い場所といえば社員食堂であり、練習をするためには並んでいるテーブルと椅子を練習前に片付け、練習後に元に戻す必要があることです。卓球台も当時はキャスター付の卓球台ではなく、重いテーブルと足を運んで組み立てるタイプのもので、練習するにも準備と苦労があったようです。また、高校生が練習に来るようになり自分たちの部活動と指導を兼ねた練習を行ったり、社会人の他社との合同練習で汗を流したことや、当社の三事業場対抗の試合等々行ったこともあり思い出に残るものがあります。中でも毎週定期的に練習を行い厳冬時期も休むことなく活動したことで、大きなチームワークを感じると同時に、この継続してきた部活動こそが、現在ではどこにも引けを取らない当社卓球部の「歴史」であり「活躍」であると言えます。また、この「歴史」と「活躍」があったが故、約40年もの間、当社卓球部が存続することができたと実感しています。

最後に、これからも当社卓球部は皆さんに誇れるような足跡をしっかりと残し、歴史のページを1ページずつ増やしていきたいと思えます。

(11) ルネサス北日本セミコンダクタ卓球部

米沢地区卓球協会の六 60 年を迎えられるにあたり心よりお喜びとお祝いを申し上げます。

我が卓球部も、卓球協会の組織底辺に関与させて頂き微力ながら貢献したいと考え、更なる卓球協会の御繁栄を願うものであります。

若きし頃を思えば、その世代その時の卓

球協会役員のいつもの顔がそこにあって、卓球コートでは今でも心に残る名勝負が思い出され、それを見て憧れ、ラケットを振れば強くなったような錯覚を覚えたのは『つい最近のような気がするが、小生の気のせいだけかも知れない。』

60 周年と言え、3 世代に渡り卓球を楽しめる正に生涯スポーツであるが、職業、家庭、健康等々の環境を自ら克服されて、競技に汗を流されている姿は、元気の源の如く、とりわけ眩しい光景でもあるが誇らしくも思う。

さて、我が卓球部にも 30 年余りの足跡があり当時社名が、コロムビア電子時代に卓球の好きなもの同士が倉庫の片隅で練習をして、発足をしたのが現在のルネサス北日本セミコンダクタの卓球部です。

当時は、政治経済が豊かで、周辺企業体の業績も好調でした。当社は、最先端部品の半導体を製造する製造工場であり半導体は当時、産業の米と評価された時代もあった。

各企業は、部活動の活性化を図る等、予算化を計画し各スポーツ少年団及び地域並びに学校などにも積極的に関わりを持ち部活動の実績を大いに評価したものでした。



各企業は、即戦力として勉学と部活動を両

立し得た人材を大いに歓迎し、活用させて
頂いたのは云うまでもない事実である。

一方、生徒達は在学中に培った部活動を
就職活動の糧にし又評価されて現在も活躍
している従業員も少なくない。

ここでルネサス北日本セミコンダクタ卓
球部員の主な活動と成果を紹介させて戴く。

平成3年6月14～16日

京都府福知山市三段池公園総合体育館

全日本軟式卓球選手権

フォーティの部

土田 清 2対3で1回戦敗退

平成3年8月（予定外）

魏京生氏を日立米沢電子体育館にお招きを
して講習会開催

全員世界レベルを体験（特に得意なサーブ）

平成4年5月 日立米沢電子体育館

県軟式卓球選手権

フォーティの部 第1位 土田 清

女子シングルの部 第2位 金子 葉子

女子ダブルスの部 第2位 金子 葉子

川崎 里美

混合ダブルスの部 第3位 土田 清

川崎 里美

平成4年7月 北海道函館市

全日本軟式卓球選手権

フォーティの部 土田 清

0対3で1回戦敗退

女子ダブルスの部 金子 葉子

川崎 里美

1対3で1回戦敗退

平成5年5月 日立米沢電子体育館

国体県地区予選

女子シングルの部 優勝 川崎 里美

準優勝 金子 葉子

男子シングルの部ベスト8 土田 清

今 修一

小関 高男

小田切祐一

ベスト16 男鹿 善幸

森 直人

平成5年6月 河北町民体育館

全日本軟式卓球選手権県予選

女子シングルの部 第2位 金子 葉子



平成5年7月8日～11日

鳥取市民体育館

全日本軟式卓球選手権

女子シングルの部

金子 葉子 1対3で1回戦敗退

平成6年5月 日立米沢電子体育館

軟式卓球選手権県予選突破

全日本軟式卓球選手権 石川県大会出場

女子シングルの部 川崎 里美

社会人卓球選手権県予選突破

全日本社会人卓球選手権 秋田県大会出場

男子シングルの部 孫田 寿行

女子ダブルスの部 川崎 里美

小田切 香

平成7年5月 日立米沢電子体育館
軟式卓球選手権県予選突破
全日本軟式卓球選手権 青森県大会出場
金子 葉子, 川崎 里美

全日本軟式卓球選手権
女子シングルの部 小倉 亜紀
ベスト16の大健闘
混合ダブルスの部 孫田 寿行
小倉 亜紀
1回戦突破

平成8年5月 日立米沢電子体育館
軟式卓球選手権県予選
女子シングルの部 優勝 小倉 亜紀

平成10年12月 東京武道館
全日本卓球選手権
女子シングルの部 小倉 亜紀



平成8年7月 青森県体育館
全日本軟式卓球選手権
女子シングルの部 小倉 亜紀

平成9年7月 兵庫県神戸市体育館
全日本軟式卓球選手権
混合ダブルスの部 孫田 寿行
小倉 亜紀



平成10年6月 群馬県高崎市体育館

(12) 卓毘会

昭和57年1月、橋本敏郎副会長の呼びかけのもと、米沢市営体育館で毎週練習をしてきた男子9名・女子2名が参加し卓球愛好会を発足した。



昭和57年2月、チーム名を「卓毘会」とし、4月に米沢卓球協会に正式登録し社会人クラブチームとして活動開始した。発足当初は旅行や芋煮会などリクリエーションが主な親睦団体であった。しかし練習をしながら少しずつ経験者が入りメンバーが揃っていった。そして平成元年4月29日、第27回山形新聞・山形放送争奪卓球大会の試合で卓毘会Aが見事男子団体優勝を果たした。平成3年あやめ杯で男女揃っての団体優勝。シングルスでは加藤博巳が山形県軟式選手権で優勝、女子ダブルスでも加藤・大比良組が優勝した。男子では、県社会人選手権で大木弘一がシングルスで優勝。平成5年、第31回山新杯で再び男子団体戦優勝。国体予選では金子雅明がシングルス優勝。県軟式選手権では、再び加藤博巳が優勝、同大会の混合ダブルスの渡部・加藤組が優勝。県社会人選手権では橋本敏郎が

優勝、女子ダブルスでは加藤・大比良組が優勝。また、平成6年あやめ杯で男子団体優勝。平成7年ダリヤ杯で男子団体優勝。平成11年会津駅長杯の男子団体優勝など輝かしい成績を収め、男女とも個人・ダブルスで活躍した。

その他本会では、毎年納涼会・ボウリング大会・芋煮会・月例杯を行っているが、年に一度の近県卓球遠征を行い秋田・岩手・宮城・福島など社会人クラブや地元高校生など幅広く対戦試合を行い、旅行を兼ねて汗を流し数多くの団体と交流を持つことができた。

その一つに JR 東日本(会津代表菊地正雄)チームや朋友クラブ(仙台)など数年交流して沢山の方と親睦を持つことができた。平成14年11月9日卓毘会20周年記念祝賀会を行い卓愛会や米沢卓球協会には多大な協力と支援をいただいた。平成17年卓毘会のユニホームができた。デザインは世界のアートディレクターとして広告デザイン界の第一線で活躍の浅葉克己先生である。右の胸にトンパ文字の跳ぶ(うれしい)をマーク、左には毘の一字。東京キングコングとは平成5年米沢でデザイン会議が開催され時、オープニングセレモニーとしてアクティ米沢の体育館で卓球大会ショーを行った。それ以来東京キングコング対卓毘会として卓球王国などの雑誌やインターネットで紹介されるようになった。浅葉先生は米沢雪灯籠祭や上杉祭を見てお祭りを堪能、来米する度練習試合を行っている。

本年、上杉杯では浅葉杯として米沢卓球協会が四元奈生美プロ・姉妹その他有力選手を招待した。来年も実力者の選手が続々集まるようで楽しみである。

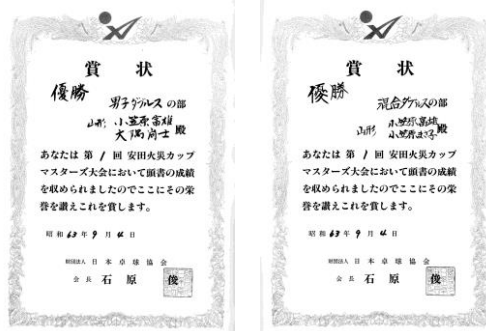
これからも社会人クラブとして米沢をリードし好成績は下よりスポーツ少年団の指導や米沢地区卓球協会運営のお手伝いなど、大会に参加するだけでなく卓球の地域発展のために活動の幅を広げて今後も会員一同卓球道に邁進し地域の関係者・愛好者の皆様と共に米沢の卓球界発展のため尽力を尽くしたい。

(13) 卓愛会

昭和54年、米沢市卓球スポーツ少年団の発足と同時に、母の会が結成されました。元選手の経験者揃いで楽しい練習会が行われました。第1回全国レディース大会(ウェアカップ)の県予選会が始まり出場しました。常に上位入賞するものの優勝には手が届かず、苦しい思いをしてきました。苦節6年、昭和61年に念願の優勝、そして全国大会の切符を手にししました。全国大会は前橋市でした。開会式の入場行進のとき各地区代表チームの紹介があり、『米沢市卓球スポーツ少年団母の会』では長すぎるので、『米沢市卓球愛好会』として登録しました。女性だけのクラブでした。昭和60年12月、男子のクラブが『米沢市卓愛会』としてスタートしました。しかし、練習会や協会登録・会計もそれぞれ独自に行っていました。また『松川クラブ』も同じようにスタートしましたが、無駄な出費も多いことから、三者協議の上、登録の一本化と練習も一緒に行うことで一致しました。ただし、男子の部だけは当分の間会計は別でした。

その後、昭和63年に軟式球に変えてラージボールを使用球とした第1回全国大会が富山市で開催されました。本県からは河北町の大隅尚士夫妻と小国町の菅原末吉さ

ん・米沢市から小笠原夫妻・遠藤みつ子さんが、遠藤さんのご主人の運転で開通間もない北陸自動車道を走り出場しました。200名以下の少ない参加者でしたが、卓球界のお歴々が多数参加され、素晴らしい大会でラージボールの幕開けとなりました。小笠原富雄の男子シングルス大隅さんとの男子ダブルス・小笠原夫妻の混合ダブルスと3種目の優勝でした。この大会で『米沢市卓愛会』として登録し、ほんの少しですが会の存在をアピールできたと自負しています。



以後、第2回新潟大会からは混合ダブルスへの参加者もグンと増え、我々も毎回男子卓愛会の協力が不可欠となり、成績もうなぎのぼりになりました。各種大会でも『米沢市卓愛会』は、まとまりのある強いチームと称賛されています。



第12回 全国レディース卓球大会

第12回全国レディース大会(平成元年7月28～30日、佐賀県総合体育館)に第2回目の県代表として出場しました。台風の中を駆けつけ、疲れも見せず大健闘でした。

その夜、レセプション会場では度胸満点、山形の花笠踊りを艶なはっぴ姿で披露し、満場の拍手と各県選手団を虜にする踊りを見せ、ここでも『米沢市卓愛会』の名を全国選手団に発信しました。「為せば成る」の精神で、年を追うごとに若い会員も増え、和気藹々と楽しく腕を磨いている現在です。



現在、卓愛会は会長が小笠原富雄から佐竹勝實に代わり、山田小八郎と皆川文子が副会長となり、50名の団体になっています。毎週水曜日、北部コミュニティセンターを使用して4台の卓球台で交代しながら楽しく練習を行っています。成績は以下のように、県内はもとより全国でも、ラージボール卓球の強いクラブとして知られております。

米沢市卓愛会(ラージボール)活躍の足跡

大会名	年度	開催地	入賞者氏名	種目	記録	備考
全国ラージボール卓球大会	S63	富山	小笠原富雄	男子単	優勝	
			小笠原富雄・小笠原まさ子	混合複	優勝	
			小笠原富雄	男子複	優勝	(大隅組)
	H1	新潟	小笠原富雄・小笠原まさ子	混合複	優勝	
	H2	秋田	小笠原富雄・小笠原まさ子	混合複	優勝	
	H4	群馬	高橋浩一・皆川文子	混合複 40	3位	
			皆川文子	女子単 40	3位	
	H6	沖縄	関谷知樹・皆川文子	混合複 40	2位	
			増村すみ	女子複 70	3位	
	H7	長崎	関谷知樹・皆川文子	混合複 40	2位	
			増村すみ	女子複 70	優勝	(大隅組)
	H8	岩手	増村すみ	女子複 70	2位	(森組)
	H9	東京	関谷知樹・皆川文子	混合複 40	優勝	
			皆川文子	女子複 40	3位	(杉本組)
	H11	北海道	関谷知樹・遠藤正博	男子複 40	3位	
皆川文子・山口則子			女子複 40	3位		
皆川文子			女子単 50	3位		
H14	山口	小笠原まさ子	女子複 70	3位	(菅原組)	
H15	高知	小笠原まさ子	女子複 70	3位	(菅原組)	
H17	北九州市	皆川文子・中村明子	女子複 100	2位		
		小笠原まさ子	女子単 70	3位		
H17	岐阜	皆川文子・中村明子	女子複 100	3位		
東北マスターズ卓球大会	H6	岩手	皆川文子・本田とみ子	女子複 40	2位	
			小笠原まさ子・増村すみ	女子複 60	3位	
			関谷知樹	男子単 40	2位	
			関谷知樹・皆川文子	混合複 40	3位	
			小笠原富雄・小笠原まさ子	混合複 60	優勝	
	H7	岩手	皆川文子	女子複 40	優勝	(児玉組)
			関谷知樹・皆川文子	混合複 40	優勝	
			関谷知樹	男子単 40	優勝	
H10	岩手	皆川文子	女子単 40	優勝		
		関谷知樹・皆川文子	混合複 40	2位		
H12	岩手	関谷知樹	男子複 40	2位	(城戸組)	
		関谷知樹・皆川文子	混合複 50	3位		
H14	岩手	皆川文子	女子複 50	3位	(荒井組)	
		関谷知樹・皆川文子	混合複 50	優勝		
東北マスターズ卓球大会	H15	酒田	関谷知樹・皆川文子	混合複 50	3位	
			小笠原富雄・小笠原まさ子	混合複 70	優勝	
	H17	原町	加藤博巳・松田眞理子	女子複 40	3位	
			小笠原富雄・小笠原まさ子	混合複 70	優勝	
			加藤博巳	女子単 40	2位	
			皆川文子	女子単 50	優勝	
			小笠原まさ子	女子単 70	2位	
	H18	北上	小笠原富雄	男子単 75	3位	
			関谷知樹・戸田良一・前山弘幸 皆川文子・中村明子・加藤博巳	団体1部	2位	団体戦
			皆川文子・加藤博巳	女子複 50	3位	
札幌新卓球ベテラン交流大会	H8	札幌	関谷知樹・皆川文子	混合複	優勝	
			皆川文子	女子単 40	優勝	
	H9	札幌	関谷知樹・皆川文子	混合複	優勝	
			小笠原富雄・小笠原まさ子	混合複	3位	
			皆川文子・山口則子	女子複 40	優勝	

	H10 札幌	皆川文子	女子単 40	2位	
		関谷知樹・皆川文子	混合複	優勝	
		皆川文子	女子複	優勝	(荒井組)
		皆川文子	女子単 40	優勝	
札幌雪祭り卓球大会	H18 札幌	関谷知樹	男子単 40	3位	
		大木弘一・加藤博巳	混合複 119 以下	優勝	
		山田小八郎・佐竹勝実	男子複 120 以上	2位	
		金子雅明	男子単 119 以下	3位	
埼玉オープンマスタースターズ卓球大会	H9 川越	加藤博巳	女子単 119 以下	2位	
		関谷知樹・皆川文子	混合複	優勝	
		小笠原まさ子	女子単 60	3位	
	H10 川越	皆川文子	女子単 40	3位	
		関谷知樹・皆川文子	混合複 109 以下	優勝	
99 韓・日、全国混合ダブルス卓球大会	H11 韓国	皆川文子	韓・日混合複	3位	(マーチオン組)
		光明市	関谷知樹	韓・日混合複	3位
ハワイシニアオープン2001	H13 ハワイ	関谷知樹	男子複	2位	(鈴木組)
		関谷知樹	男子単 50	3位	
		皆川文子	女子単 50	2位	
世界ベテラン卓球選手権ラージボールヨコハマ2004	H16 横浜	皆川文子	女子単 59 以下	3位	
		小笠原まさ子	女子単 70	3位	
全国スポーツレクリエーション	H3 熊本	色摩拓・佐竹勝實	1次リーグ	4位	団体戦
	H5 島根	皆川文子	1次リーグ 2次リーグ	1位 ベスト8	団体戦
	H9 沖縄	小笠原富雄・小笠原まさ子 山田小八郎・佐竹勝実 皆川文子・関谷知樹 山口則子・遠藤正博	1次リーグ 2次リーグ	1位 ベスト12	団体戦
		金子雅明・皆川文子	団体戦	2位	さくらんぼチーム
H11 酒田	関谷知樹	団体戦	ベスト8	べにばなチーム	
全国ねんりんピック	S62 第1回岩手	佐藤 猛	団体戦		
	H4 第5回山梨	小笠原富雄・小笠原まさ子	団体戦		
	H5 第6回京都	細谷春子	団体戦		
	H6 第7回香川	小笠原富雄・小笠原まさ子 増村すみ	団体戦		
	H8 第9回宮崎	小笠原富雄・小笠原まさ子	団体戦		
	H9 第10回山形	小笠原まさ子	団体戦		